

## 月例研究会抄録

平成22年度明倫短期大学学会月例研究会は、平成22年4月22日の第43回から10月28日の第48回まで計6回開催された。8年に及ぶ当研究会における総演題数は90に上る。また前身の明倫短期大学研究会からの通算回数は131回に上った。歴年の演題名等は学会HPを参照下さい。

第43回（通算第126回）：2010年4月22日（木）

（座長：金子 潤）

## 臨床から教育の現場へ

川崎律子（歯科衛生士学科）

歯科衛生士になって20年数年経過いたしました。歯科界ではこの20年の間にも従来型の「治療中心型」から「予防中心型」への大きな変革があり、その移行とともに私達歯科衛生士の担う責任はますます大きく、役割も多様化してきていると実感しています。

臨床を長く続けてきたことにより、文献や講演会だけでは学べないたくさんのお話を習得することができました。また、長年、口腔の疾患で悩んでこられた患者様が、私達歯科衛生士と出会うことで、QOLが豊かになり人生に希望を持たれる姿を多く拝見し、歯科医療を通じてそのような支援ができるすばらしさを実感いたしました。

この臨床の現場で得た知識・技術とそして患者様と一緒に泣いたり笑ったりできる感動を教育の現場でお伝えしていきたいと思っています。歯科衛生士の楽しさを学生の皆さんに知っていただきたいと思います。

これからの歯科医療には、患者様をサポートしていくうえで、医院内の総合力の向上とともに、私たち歯科衛生士一人ひとりの働き方に大きな責任が課せられています。今後は社会で活躍できる歯科衛生士の養成に貢献していきたいと考えております。

## 歯周組織の健康と補綴装置

河野正司（歯科技工士学科）

### I. 補綴装置の目的

補綴装置を使用する目的の主要事項は下記のようなものである。①顎口腔系の機能と形態の回復②顎口腔系に為害作用を及ぼすことなく、回復状態の長期間の

維持

⇒これらの目的達成のためには、「歯周組織の健康を保てる補綴装置であること」が必須である。そこで、補綴装置の歯周組織への為害作用例を示し、その具体的な対策について論じた。

### II. 補綴装置の歯周組織への為害作用例

#### 1. 歯根膜への不適切な負荷

症例：不適切な歯のガイドによる補綴歯の脱落 レストの機能不全による咬合痛と辺縁歯周組織への外傷

対策：荷重に対する歯根膜特性の理解 「荷重－変位曲線」とは

#### 2. クラウン歯頸部の適合不良

症例：前歯部支台歯のショルダーからオーバーハンクしたクラウン歯頸部 軸面豊隆形態の不良

対策：歯科医師と歯科技工士は基本に忠実なこと

#### 3. クラスプの抜歯鉗子作用

症例：機能しない拮抗腕（bracing arm）

対策：ミリングした拮抗腕 I-barの適応 テレスコープの適応、これについては重度な歯周病罹患歯に対する対応例を供覧した。

### III. 重度な歯周病罹患歯に対する対応例

可撤性（テレスコープ）クラウンを適用することにより、次の事項が可能となる。

それによって、重度な歯周病罹患歯の管理が容易に、確実に行われる様になった。

#### ① 歯頸部不潔域の可撤化

#### ② PMTCの確実な実施が可能

この症例の詳細は下記の論文を読んで頂きたい。

大沼誉英，小林 梢，生野美絵，水橋庸子，河野正司：高度の歯周病罹患歯の補綴処置法とオーラルケアからみた評価，明倫歯科保健技工学雑誌，13（1）：24-31，2010。

第44回（通算第127回）：2010年5月26日（水）

（座長：野村章子）

## 臨床技工プロ講座の紹介と本科の技工実習に取り入れたいこと

伊藤圭一（歯科技工士学科）

生体技工専攻で開講されているキャストパーシャルデンチャー特論は「誰にでも簡単にわかる・できるキャストパーシャルを学ぶ」を講座のテーマに掲げている。講師の金井孝行臨床教授から、ビギナー

に限らずベテランまで、明日から使える臨床技工のノウハウを学べることは貴重な経験である。そこで、本科でも金属床の実習を行っていることから、キャストパーシャルデンチャー特論の知識や技術を応用したいと考えた。そして、平成21年度から一部取り入れて実習を組み立てて実施したので、その内容を紹介した。

## 英語リーディングについて

廣瀬浩二（歯科衛生士学科）

リーディングは書き手と読み手のコミュニケーションであるという観点から、リーディングの重要性について発表した。英文をスムーズに読むには、約1万語が必要だといわれている。アメリカ人は小学校入学段階で既に約6千語の語彙を獲得している。しかも、これらの語彙は口頭で利用できるレベルにある。それに対し、日本人は中学校3年間でわずか900語程度である。語彙数からみて、日本人が読めないのは当然の帰結といえる。語彙力の他にも、日本の学校ではパラグラフ構成についてあまり教えていない。これは日本人が英語を読めない、書けない理由の一つだと考えられる。CLT（Communicative Language Teaching）は全盛でスピーキングにスポットライトがあたりがちであるが、確かな英語力を養うにはリーディングは避けられない。これまで日本の英語教育では、外国の指導法を直接導入することが多かったが、日本の環境に適する指導法を独自に開発する時期に来ていると考える。

第45回（通算第128回）：2010年6月24日（木）

（座長：栗崎由貴子）

## 歯科衛生士学科『歯科補綴学』合同 体験実習の取り組み

西山真紗美（歯科衛生士学科）

歯科補綴治療において歯科衛生士が歯科診療補助を確実に行うためには、歯科医師の診療行為を十分に理解するとともに知識・技術を確実にする必要がある。そこで、平成21年度より、歯科衛生士学科2・3年生を対象とし、実施頻度の高い概形印象採得および咬合紙診査の学生参加型合同体験実習を行ってきた。その結果から問題点の把握と改善を行い、平成22年度の学生参加型合同体験実習を企画し、効果と課題を検討した。

学生指導者役である3年生の増員により、2年生の実習への満足度が上がった。3年生は平成21年度に合同体験実習を経験していたため、学生指導者役としての意欲が高かった。また、学生指導者役の経験は、自分の力量を知るとともに、責任感をもつことが示唆された。

今後は、他の実習においても学生指導者役となる機会を与え、知識や技術のレベルアップにつなげ、患者への歯科保健指導や集団における歯科保健教育に活かせる指導力を育成することが必要である。

第46回（通算第129回）：2010年7月22日（木）

（座長：飛田 滋）

## マウスガードの応用

佐々木 聡（歯科技工士学科）

2006年7月22日の第22回（通算105回）の月例研究会で「マウスガードの機能評価」について報告した。今回はマウスガードの応用編として、口腔内リモートコントローラへの応用、楽器奏者における機能評価について報告した。試作1号としてカラーマウスガード4.0mm、エルコデント2002（共にエルコデント社）を用いて下顎に全歯歯冠部のみを覆うタイプで製作した。自宅で演奏時に気になる部分（臼歯咬合面部や唇舌側部の厚さ）があり、前歯歯冠部のみを覆い、唇舌部を可能な限り薄くしたタイプを試作2号とした。試作2号は、切縁の厚さが気になり、厚さ1.0mmのエルコフレックス（エルコデント社）をみたび製作し、試作3号とした。試作3号はかなり良好な装着感とのこと。試作3号に慣れてもらうため、3ヶ月間演奏時には必ず装着してもらった。マウスガード試作3号に慣れたころ試作3号の装着有り無しで演奏を録音し違いを確認したが、確認出来ず、会場内の皆様から活発なご意見をいただいた。

## 障害学生の修学支援—発達障害を 中心に—

入山満恵子（専攻科保健言語聴覚学専攻）

近年、「発達障害」が様々な教育活動のなかで取り上げられつつある。その論議は、小・中学校のような義務教育の課程だけでなく、大学、短期大学のような高等教育機関においても広がりを見せてい